

□一

問一 1Ⅱ等価 2Ⅱ依頼 3Ⅱ拒否 4Ⅱ派手 5Ⅱ修復 6Ⅱ類似 7Ⅱ所与

問二 何がしかの「事実」を描写した言語表現は、本質的にフィクションである。(34字)

問三 「性格が悪い」と「美人だ」というア子についての情報のうち、aでは前者が、bでは後者が強調されている。(50字)

aでは「性格が悪い」が強調され、悪い印象が、bでは「美人だ」が強調され、よい印象が与えられる。(47字)

問四 「事実」そのものに嘘はなく、もとの「事実」に順序がついていない以上、どのように並べても間違いではないという意味で。

(57字)

問五 「事実」をできるだけ忠実に、正確に表現しようとしても、本来順序のついていない「事実」についての情報に順序をつけなければ提示することができず、その順序を作為あるいは無作為に配列することによって表現の論旨や説得力に変化が生じる表現技巧のこと。(119字)

□二

問一 財の価格や供給水準を決める市場のあり方を操作することで人々の行動を規制すること。(40字)

問二 前者は所与の制約であるが、後者は意図的操作による制約である。(30字)

問三 設備の操作によって、行為を規制したり特定の人間を排除したりすることが可能となる。(40字)

問四 環境設定による行為の制約は、行為当事者の認識や主体的選択判断と無関係に遂行されるということ。(46字)

問五 法や規範の権力はその規制を認識し理解していることを前提とし、それに違反したものに事後的に制裁を加えるが、アーキテクチャの権力は、我々の行動に先立って環境自体を操作し、我々の行為を我々が気付かぬままに規制することによって自由を奪うものである。(120字)

**三**

問一 イ 亡くなった男が

ロ 深い思いを募らせようとする

ハ 長年の念願

問二 あやしの庵むすびで、ただひとりをりけり。

問三 この僧が寡婦のもとに通い、女犯の罪を犯しているということ。(二十九字)

問四 自分の評判を落とすことで自分が寺から追い出されるようにしむけ、他僧との関係に煩わされずに仏道修行に専念するため。

(56字)

**四**

問一 A そのみることいよいよよきなり。

B ひまさにつきんとす(と)。

C それたれかよくこれをそしらんや。

問二 恐らく私が行き着いた深さは、探検の好きな者に比べれば、十分の一にも達していないだろう。

問三 D 珍しいものを観たいという志がない場合。

E 志はあり、やめようとも思わないが、力が足りない場合。

F 志も力もあり、怠ることもしないが、助けがない場合。

問四 目的にたどり着けなかった時、力があるのにやめたのなら、人に非難され自分も悔いが残るが、力と志を尽くしてのことなら、後悔もせず非難もされないということ。(75字)